

Title	Prof. Pierre Chiron講演会：アリストテレス弁論術の最新研究について
Sub Title	
Author	納富, 信留(Notomi, Noburu)
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム人文科学分野論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2007
Jtitle	活動報告書 Vol.1, (2007.) ,p.26- 26
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	第2章：シンポジウム等の活動報告
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002002-20080300-0026

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

開催日 2008年2月4日
企画班 論理・情報
企画者 納富信留
講演者 Pierre Chiron (パリ第12大学)

西洋古代の政治・社会において「言論の技術」は、思考や情報伝達におおきな役割を果たしていた。それを「弁論術」とし「論理学」から峻別して批判を加えたのがプラトンであり、弟子アリストテレスも基本的に同様の枠組みにおいて「弁論術」を検討した。フランスやイタリアなどヨーロッパ諸国では弁論術（レトリック）の歴史研究には長い蓄積があり、文化において依然重要な位置を占めている。他方で、近代に欧米の学問システムを導入した日本の大学では、「弁論術」が学科からはずれたため、著しく研究が遅れてきた。

今回ご講演をいただいたパリ第12大学のピエール・シロン教授は、これまで西洋古代弁論術の主要著作を校訂・翻訳してこられた第一人者で、昨年出版されたアリストテレス『弁論術』の仏訳（GF Flammarion版）について、ご経験を踏まえた講演

をいただいた。講演と議論をつうじて、偽アリストテレス『アレクサンドロス宛弁論術』（シロン教授がビュデ版で校訂）に代表される「アリストテレス以前弁論術」との比較対照で、アリストテレス理論の革新性が検討され、それが今日までの西洋弁論術の伝統を形成したことが示された。

講演に先立って、東京大学大学院で西洋古代弁論術を研究しておられる堀尾耕一氏よりシロン教授の業績について詳細な紹介をいただいた。また、講演会には、広く弁論術に関心のある多分野の研究者にご参加をいただいた。日本での弁論術の研究は諸外国と比べて立ち遅れているが、論理と感性の諸問題をより広い理論的・歴史的枠組みで捉える鍵となることが期待される。論理・情報班では、今後とも積極的に弁論術研究を進めていく予定である。

(納富信留)